

羅針盤

小樽みらい会議会報



10

【小樽みらい会議事務局】

小樽市稲穂2丁目22番8号
駅前第一ビル4階

【発行責任者】

小樽みらい会議 代表

としや
はざま俊哉

皆さん、その後、お変わりありませんか？早いもので平成30（2018）年に市長に就任してから、この8月で2期目の8年を終えることになります。この間、皆さんには小樽市政の推進にあたり、温かく見守っていただきましたことに感謝しています。

前市長時代には市議会や経済界と信頼関係を築くことができず市政の混乱を招きました。私は市政を立て直すために60歳の定年を待たず、2年を残して小樽市役所を退職しました。前市長が4年の任期を前に辞職をしたので、1年半の間、小樽みらい会議を立ち上げ政治活動を続け、市長選に挑みました。

多くの皆さんのご支持をいただきながら政治活動を続けましたが、この1年半はその後の私にとりまして、とても重要で有意義な期間であったと感じております。最も感じたことは、市政（市役所）が良かれと思って進めていることが必ずしも市民の皆さんに受け入れられてはいないということでした。つまり、市政（市役所）と市民の皆さんとの「距離感」の存在でした。

平成30（2018）年の最初の選挙で前市長の得票は19000票あまりでしたが、この得票は、それまでの市政（市役所）に対する批判票で、批判の矛先も「距離感」と受け止めました。

この「距離感」を感じた時、私の大先輩である山田勝磨元市長が、私の職員時代に職員に対して、市民感覚として「市役所の常識は非常識」と話されていたことを思い出しました。山田元市長も市政（市役所）と市民の皆さんとの思いの間にミスマッチが生じていることを感じられていたのではないかと思います。

このことから、この8年間、市民の皆さんと様々な機会を通じて対話を重ねることで、この「距離感」を縮めることを意識して市政にあたり、また、職員の間にもこの意識を醸成することに努めてまいりました。

もう一つは「備え」の意識です。私の任期中には平成30（2018）年に「胆振東部地震」、令和6（2024）年

に「能登半島地震」が起きました。また、令和5（2023）年には熱中症により伊達市で小学生が亡くなりました。

近年、頻発する地震などを教訓に、従来進めてきた「小樽市総合防災訓練」を、特に職員にとってより実務的な訓練に見直すとともに、市内の避難所に備える災害備蓄品を増強しました。また、地球温暖化による暑さ対策として、小中学校の全ての普通教室に冷房設備を整備しました。

市民の皆さんにとって最も関心の高い除排雪につきましても、例年12月1日に開設していた「除雪対策本部」をひと月早く11月1日に開設することとし、併せて、近年の豪雪に備え予防保全の観点から作業にあたることで早めの対応を心がけてまいりました。まさに「備えあれば憂いなし」の思いです。

ここで2期8年を振り返り、主な取り組みをご紹介しますと思います。

1) FMおたるの難聴地域の解消

平成30（2018）年9月、私が当選した数日後に「胆振東部地震」が発生し、私たちはブラックアウトにより2～3日間の停電を経験しました。直ちに災害対策本部を立ち上げ、対応にあたりましたが、その時に感じたのは情報伝達手段の脆弱性でした。

コミュニティ放送「FMおたる」を通じて市内の停電の状況などをお伝えしましたが、小樽は山坂が多く、市内には広い範囲で難聴地域が存在しました。このため、国の補助金を活用し、新たに3か所の中継局を開設し、難聴地域を解消し、併せて、防災力の強化を図りました。



2)「おたる子ども未来塾」の開講

小樽は全国平均に比べて、ひとり親世帯の割合が高い自治体の一つです。このため、ひとり親世帯や経済的に不安を抱える世帯の中学生を対象に、学習・生活支援事業として「おたる子ども未来塾」を開講しました。

学習塾を運営する株式会社トライグループに運営を委託をし、週に一度、個別指導を行っています。現在では受け入れを高校生まで拡大し、オンライン学習にも対応しています。

令和8年度は33名の登録がありましたが、引き続き、中高生の皆さんが希望する進路に進むことができるよう、また、それぞれの夢が実現できるよう支援してまいります。

3) 子育て支援策の充実

少子化が進む中で力を注いできたのが、子育て支援策の充実でした。市長に就任後、新たに「こども未来部」を設置し、子育て世代の皆さんが安心して子育てができるよう、金銭的な負担軽減だけではなく、精神的な負担軽減につながる施策を進めてきました。

この間、18歳までの医療費の無償化、第2子以降の保育料の無償化を実現しました。また、放課後児童クラブの利用料を無償化し、保護者の皆さんの迎えの時間を考慮し、開設時間の拡大にも取り組みました。



昨年12月には、子育て世代の皆さんから要望が多かった親子の居場所として、ウィングベイ小樽内に地域子育て支援センター「おやこの集いの場」をオープンしました(写真)。また、現在は小樽公園内に来年の8月頃のオープンを目指し、大型遊具や自然を生かしたスロープなどを備えた児童遊園の整備を進めています。

4) 観光振興の推進

令和7年度の観光入込客数が2年連続で800万人を超え834万人に、宿泊客数は初めて100万人を超え、3年連続で過去最多を更新しました。

新たな宿泊施設や観光施設の開業など観光客の受け入れ環境の充実が進んだことがその背景にあります。市としても「北海道の心臓と呼ばれたまち・小樽」の日本遺産の認定や、官民による小樽港第3号ふ頭周辺の「にぎわい空間」の創出など歴史や海、港を生かした観光振興に努めてまいりました。

宿泊客の増加は、本年4月から徴税を始めた宿泊税(一人一泊200円)の増収につながるとともに、市内での観光消費額の増加にもつながります。一方、市内では今後も宿泊施設の開業が予定されており、宿泊客数の増加に伴い、夜の観光の充実が課題となります。

市としては、今後、歴史的建造物がライトアップされたエリアを拡大するなど、夜の魅力を充実させてまいります。

私は本年2月、この8月に行われる市長選に3期目の立候補することを表明しました。

小樽を訪れる観光客、宿泊施設や銭函地区への工場の立地は順調に推移しております。しかしながら人口の減少特に少子化や公共施設の老朽化、さらには公共交通の維持など解決しなければならない課題も多くあります。

こうした課題を着実に解決に導き、小樽市がこれからも持続力と活力のあるまちであり続けられるようしっかり取り組んでまいります。

小樽みらい会議

市政報告・講演会のご案内

日時:2026年7月2日(木)18:00~

場所:小樽経済センター7階

主催:小樽みらい会議

第1部 市政報告

小樽みらい会議 代表 迫 俊哉

第2部 講演会

『日本遺産と
歩む街』



小樽市総合博物館

前館長 石川 直章 氏

参加
無料

お問合せ:TEL.0134-64-7280